

「SPF China Observer」公開フォーラム (2021年1月25日)

「バイデン米政権の誕生と 中国の思惑、そして日本」

静岡県立大学 諏訪一幸

1. 中国からは「けん制と秋波」のメッセージ

(1) 党理論誌『求是』に掲載された習近平スピーチの日付とテーマ

①2017年1月17日（ダボス会議）、グローバル化推進（2020年12月15日付）

②2017年1月18日（国連ジュネーブ事務局）、人類運命共同体（2021年1月1日付）

(2) バイデンへの祝賀メッセージ

①「中米関係の健全かつ安定的発展の促進」を希望（2020年11月25日、習近平祝電）

②「大統領就任に祝意」を表明（2021年1月21日の定例記者会見で、質問に対し外交部報道官）

2. ブレのない習近平「強硬」外交

- (1) 「強さ」追求は、外交や軍事に限らない、習近平政治の基本スタイルであり、善
- (2) 「四つの自信」（中国の特色ある社会主義を「歩む自信」、「理論的自信」、「制度的自信」、「文化的自信」）の強調
- (3) 中国式ポピュリズムと共鳴（大衆の支持と「人民のために奉仕する」）
- (4) トランプのオウンゴール（自国第一主義、コロナ対策失敗）で得点
- (5) 批判のある「コロナ外交」（マスク、ワクチン）ではあるが、中国はますます自信

3. 対米（バイデン政権）外交の見通し

(1) 「売られたケンカ」ではあるが、対米関係改善は、やはり最大の外交課題

(2) 中国は、バイデン政権の対中政策が「経済貿易や軍事安全保障面では前政権の強硬姿勢を基本的に踏襲、人権問題や国家統合問題ではより強硬に、グローバルな課題では協調模索」と予測

(3) 是々非々を希求も、対立基調。米国の国際社会への復帰を「歓迎」し、「恩を売る」一方で、自らの国益と影響力拡大（人類運命共同体、一带一路、南シナ海）のため、自信をもって強硬姿勢を継続

4. 日本の対中外交のあるべき姿

- (1) 中国にとっての日本は、「大国外交」の対象から「周辺国外交」の対象に「格下げ」
- (2) 稀有な、高く売るチャンスの到来（米中対立、習近平訪日）
- (3) 民主主義に対する確固たる信念が前提
- (4) 目指すは、地域と世界の平和、繁栄、安定を視野に入れた「対峙、説得、協働」の三層外交
- (5) 米中関係改善の「橋渡し」以上の役割追求を
- (6) 日本の対中国民感情改善のため、中国の努力を慫慂